

能登半島地震における交通インフラ被災が 緊急支援物流に与えた影響

伊藤丈流

本研究は、2024年能登半島地震において、交通インフラの被災が緊急支援物流を遅延させ、その結果として復興の初動・進行が遅れたという因果関係を明らかにすることを目的とした。対象は、令和6年能登半島地震で大きな被害を受けた石川県能登地域（特に輪島市・珠洲市など）であり、支援を受ける被災住民と、支援を担った行政・自衛隊・民間物流主体の動きを分析対象とした。本研究は、国・県・自治体の公式資料、報道記事、先行研究を用いた文献分析を行い、交通インフラ被災状況、支援物資の到着時期、復興指標（仮設住宅・避難所状況）を時系列で整理・比較し、道路・鉄道・港湾の広範な被災により陸上物流が長期間制約され、空路・海路への依存が高まった結果、地域間で支援物資到着や復興開始に大きな差が生じていたことが確認された。交通インフラの被災は支援物流の遅延を通じて、避難生活の長期化や仮設住宅整備の遅れを招き、復興全体のスピードを左右する主要因であることが明らかになった。本研究は、災害時における「交通インフラの早期確保」が人命・生活支援だけでなく復興加速に直結することを示し、今後の災害対応における多重輸送路整備と初動物流戦略の重要性を示唆するものである。